

## 成相寺

成相寺は天橋立を見下ろす、海拔 350メートルの山に位置する真言宗の寺です。この山は長い間神聖な場所として崇拝され、日本の修験道の聖地とされてきました。成相寺は平安時代（794 年～1185 年）から西国三十三所の 1 つとして貴族や巡礼者たちが頻繁に訪れ、元祖の天橋立を望む場所だったとされています。

成相寺は文武天皇の命令により、704 年に建立されました。成相寺の本尊は、慈愛の仏である観音菩薩です。伝説によると、山で修行をしていた 1 人の僧侶が深い雪の中、食料の無い状態で閉じ込められてしまいました。そして僧侶が観音像に祈りをささげていると、目の前に鹿が倒れているのを見つけました。僧侶はこの鹿を食べることで命をつなぎますが、この鹿は観音像の化身であったといわれています。

これまでに戦争や自然災害により成相寺は何度か破壊され、そのたびに再建されてきました。過去の成相寺は、1507 年に火事で焼失する前の姿が雪舟（1420 年～1506 年）の「天橋立図」や、16 世紀後半の「成相寺参詣曼荼羅」などの作品で見ることができます。そして優雅な曲線美をもつ切妻屋根の本堂は、18 世紀後半に現在の場所に再建されました。また成相寺には、古くからの墓地、鐘楼、そして 1990 年代に建てられた五重塔があります。いまや天橋立は成相寺からは見えなくなりましたが、かつての成相寺のあった敷地には、天橋立の美しい景色を見ることができる展望スペースがあります。